

本日は長崎原爆の日でテレビでも記念式典の実況中継がありました。総理大臣が出たのは今回が最初とは知りました。友人の太田武夫先生がお姉さんの生々しい原爆被爆体験を書いてくれました。

皆様にも読んで頂ければと思いましたので投稿させて頂きました。

友人の18歳の姉が通学途中で原爆被爆したお話です

2022年8月9日 太田隆次



本日8月9日は長崎原爆の日で式典の様子はテレビで中継されました。

この長崎平和記念像は像の柔和な顔は神の愛と仏の慈悲を、天に向けて垂直に高く掲げた右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を横にした右足は原爆投下直後の長崎市の静けさを立てた左足は救った命を表し軽く閉じた目は戦争犠牲者の冥福を祈っている
[そうです。

私の友人は11歳上のお姉さんが通学途中で被爆したそうです。以下は後日、彼がお姉さんから聞いた生々しい回想記です。

高津の皆様にもご参考になればと思い紹介します。

以下引用です。

当時長崎で学んでいた私の姉（11才上だから当時18才）は奇跡的に助かった一人である。

以下はその後。姉から聞いた話である。

姉は当日学徒動員で原爆投下地点の方に向かって市内電車に乗っていた。ところが電車が事故で動かなくなり余りに時間がかかり（2時間くらい）予定も判らないので、反対行きに乗り換えて帰宅しようとしていたときに被爆したのだ。

突然太陽が落ちてきたと感じる閃光にうたれ、気がついたら電車を飛び降り近くのドブ（溝）のなかにいた。もの凄い風が頭の上を吹き去って行った後、頭を上げて、乗っていた電車の方を見ると乗客全員がつり革にぶら下がったままで、頭から血を流してポーと立っていた

この間ピカはあったがドンという音はなくむしろ全てが静寂だった。ピカドンというのは遠くに居た人の体験だ、と私は姉から直接聞いた。

だがそれ以上のことは私は聞けなかった。姉はおそらく閃光の陰になる位置で、窓から離れた位置にいて、気丈な姉は直ぐに飛び降りて、熱風が来る前に溝に飛び込んでいたのだ、そして爆風による一過性の聴力障害に陥っていたらしい。

それにしてももし電車が事故もなく予定どおり走っていれば、おそらく爆心地近くで乗客全員が灰になっていたのを免れ得た奇跡が本当にあったのだ

姉は 2010 年に逝去した。娘 1 人を残した。英文科を出たので米軍文化センター、ノルウエーやスウェーデンの会社の通訳、母校の非常勤講師などをした。

姉は熱心なクリスチャンで、原爆について愚痴をいうことは生涯なかった。

終わり